自然災害に対する個人的な感覚：フィリピン・ヴィサヤ地域の場合

Risk Perception and Actual Reaction for Natural Disaster of Younger Generations in Visayas, Philippine

*伊藤 孝[1]
*Takashi Ito[1]

1.茨城大学教育学部
1.Faculty of Education, Ibaraki University

インターネットを介した対面インタビューにより，フィリピン・ヴィサヤ地域在住の20代女性の自然災害に対する意識調査を実施した。聴き取り人数は55名である。結果，最も恐れる自然災害として地震を挙げ（57.3%），次に台風（26.4%）が続き，この二つで80%を越えた。恐れる理由としては，自身の直接経験が51.9%，テレビ報道等を介した間接経験が13.5%となり，主に過去の経験により，恐れの感情が醸成されていることがわかった。地震を対象とした避難訓練は，約70%の人が小学生時代に経験済みであり，うち75%が教室に留まり，机の下に隠れる，かがむと指導され，11%が外へ避難と指導されていた。しかし，2013年に発生したボホール地震では，34.8%の人が真っ先に外に避難した。この割合は，地震発生時，起きていた人を対象とすれば，より高くなる。その理由として，その時点で自分がいる建物の強度を瞬時に勘案し，外へ避難する方が安全という結論が下されたことがわかった。

キーワード：自然災害、地震、台風、学校防災教育
Keywords: natural disaster, earthquake, typhoon, school disaster education

©2016. Japan Geoscience Union. All Right Reserved.